

しば子先生の

ミ

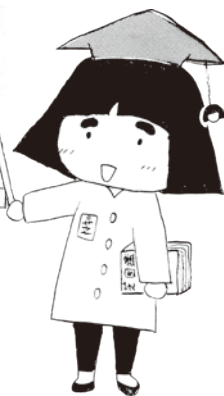
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第92回 肥料切れ



先生：肥料焼けのシステムについてずいぶん説明してきたけどわかったかしら？

生徒：肥料焼けのシステム自体は、細胞内の水溶液の濃度と土壌中や葉の表面に触れる水溶液の濃度の差が広がると起こる浸透圧による現象です・・・肥料自体の水溶性や散布量、植物の細胞内の水溶液の濃度、つまり肥料養分が十分にいきわたっているか・・・そして土壌の排水性など・・・いろいろなファクターが絡んで起こるという事ですね・・・

先生：そのとおりね・・・いつも私が言っているように、十分な養分を吸収している健全な芝生・・・そして排水性の良い理想的な土壌が芝生も強くするし管理も楽になるという事なのよ・・・

生徒：本当にそう思いました・・・

先生：でも肥料焼けの起こしやすさの条件はまだ他にもあるのよ・・・

生徒：ええっ・・・まだあるんですか・・・

先生：あるわよ・・・考えれば当たり前のことだけど、夏の方が冬よりも肥料焼けを起こしやすくなるわね・・・

生徒：なるほど・・・理由は何だろう？・・・

先生：まず単純に肥料などの物質が冷たい水には溶けにくく、暖かい水にはすぐに溶けるという事・・・溶け難ければ塩類濃度を上げるのに時間がかかるし溶け易ければ急激に上がるという事・・・それに芝生自体が冬場は生育が緩慢なためにそれほど多くの水分を吸い上げる必要がないので、仮に土壌の水分を吸収し難くなったとしても枯れるような症状が出にくいとも考えられるわね・・・逆に夏はちょっとでも水の吸収が妨げられるととても影響は大きいわね・・・特に寒地型の芝生の場合は深刻ね・・・一般的に暖地型より寒地型の芝生の方が塩類の抵抗性が低い上に夏場の暑さに弱い・・・

生徒：なるほど・・・夏場と冬場では肥料のあげる量や種類を変えないといけないのはそういう理由ですね・・・

先生：それに『肥料焼け』と言っているけど、濃度差が起こる状況は肥料だけではなく農薬や他のどんな**資材**でも起こりえるという事を忘れてはいけないわよ・・・

生徒：そうか・・・人間が『肥料』とか『農薬』とか呼んでいるだけで『化学物質』というくくりで考

えれば、塩類濃度を上げてしまう物質はすべて焼ける可能性があるという事ですね・・・

先生：そのとおりよ・・・しかし実際農薬なんかでは使用量が肥料よりずっと少ないから肥料ほどのリスクは通常ないわね・・・それに規定薬量で農薬を適正に使用するならば、農薬登録を取る段階で薬害試験を十分しているはずだから問題が起こることは通常考えにくいわね・・・

生徒：なるほど・・・その点が肥料と違うところですね・・・

先生：でも！・・・時々薬害の出るはずのない農薬で薬害が出たとか・・・そういう事が起こることがたまにあるけど、これは芝生に十分な養分が与えられず生育レベルが低く、細胞内の溶液の濃度が極端に下がっていることが考えられるわね・・・

生徒：そうか・・・肥料が切れている芝生は肥料焼けのリスクだけでなく、農薬や他の資材でも焼けるリスクが上がってくるんですね・・・

先生：そのとおりよ・・・いつも言っているけど肥料が不足している芝生は人間でいえばすでに栄養失調の状態だから、あげられる食事もある程度のしっかりとした食事はあげられず、おかゆのような物を少しずつ与えるぐらいしかできなくなるわね・・・それに体の抵抗性が下がってしまうので健康なら感染しないような病気にもすぐかかってますます弱る・・・

生徒：本当にそのとおり・・・人間と一緒にですね・・・

先生：そして悪いことに栄養失調で抵抗性が下がって病気になってしまったので治すためにお薬を飲んだら元気がないので薬の副作用まで出てしまう・・・

生徒：そうか肥料切れで病気がどんどん出してしまうので殺菌剤や殺虫剤をたくさん播かなければいけない・・・そして下手するとその農薬で薬害が出てますます芝生が枯れてしまうことも・・・

先生：まさに悪循環・・・たまに「殺菌剤撒いたのに芝生が元気にならない」という人がいるけど・・・殺菌剤は菌を殺すだけで芝生を元気にする資材ではないことを理解してないわね・・・

生徒：やはり芝生を元気にするには健全な土壌と正しい肥培管理なんですね・・・肥料は切っちゃダメですね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

